

(1) 知的資源の還元による地域連携：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	B群：社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度 : 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況 : 教育研究上の成果の市民への還元状況 C群：ボランティア等を教育システムに取り入れ地域社会への貢献を行っている大学・学部等における、そうした取り組みの有効性 : 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況
大学院	B群：研究成果の社会への還元状況 C群：国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

USR（大学の社会的責任）の観点から、地域連携活動への積極的参加を行い、大学の知的資源の還元を目標としている。

各キャンパス等が立地する周辺地域から国内各地域での連携等、多岐に亘っているのが本学の特色と言える。

a. 地域との連携プロジェクト

美術大学ならではの知的資源を活用し地域と密着した連携活動を行っている。地域の教育や文化活動にも大きく貢献している。その幾つかを次のとおり例示する。

イ. 八王子学園都市大学

八王子学園都市大学（いちょう塾）は、「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域 23 大学等、企業及び市民の協働により、2004 年 9 月に設立された。学校教育法上の大学とは異なる市民大学である。

八王子地域 23 大学等が特色を活かした専門的な講座や、複数の団体による協同授業などユニークな講座を開講しており、本学も参加している。

会場は、八王子地域 23 大学のキャンパス、学園都市センター（JR 八王子駅北口前、八王子スクエアビル 11～12 階）及びクリエイトホールであり、他大学の学生や市民と一緒に授業を受けるなど、様々な人とも交流が出来る。

参加大学及び本学が協力した講座は次のとおりである（表Ⅱ-九-1 参照）。

工学院大学、明星大学、東京工業高等専門学校、帝京大学、帝京大学短期大学、東京造形大学、東京純心女子大学、杏林大学、多摩美術大学、創価大学、創価女子短期大

Ⅱ-九. 社会貢献

学、東京薬科大学、拓殖大学、中央大学、日本文化大学、法政大学、東京工科大学、首都大学東京、山野美容芸術短期大学、ヤマザキ動物看護短期大学、東京家政学院大学、サレジオ工業高等専門学校、デジタルハリウッド大学

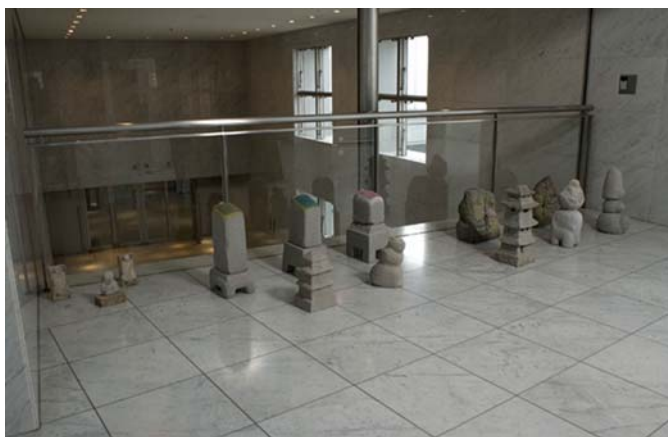
開講期	講座名	場所
通年	美学概論	多摩美術大学
通年	造形心理学	多摩美術大学
前期／後期	手軽に楽しむ水墨画（初級）	八王子学園都市センター
前期／後期	手軽に楽しむ水墨画（中級Ⅰ）	八王子学園都市センター
前期／後期	手軽に楽しむ水墨画（中級Ⅱ）	八王子学園都市センター
前期／後期	ワークショップ・シルクスクリーン	多摩美術大学
前期	西洋絵画の解説術Ⅰ：聖書の主題	八王子学園都市センター
前期	“形の不思議”にチャレンジ －図形のイメージの変換で絵をつくる（発想）－	八王子学園都市センター
後期	こどもの絵の世界 －絵で人間の発達を読み解く－	八王子学園都市センター
後期	バイオ・アート	多摩美術大学
後期	現代芸術の現在	八王子学園都市センター
後期	ベンチャー起業論	八王子学園都市センター
後期	西洋絵画の解説術Ⅱ：神話・世俗的主题	八王子学園都市センター
後期	オリジナル版画（シルクスクリーン）制作 －クリスマスカード・年賀ハガキをつくらう－	多摩美術大学

（表Ⅱ-九-1 いちよう塾開講講座・2007年度）

ロ. ギャラリー「たまびば」における空間提案・実施、出展・運営

2005年に（株）スーパーアルプスと環境デザイン領域、情報デザイン領域の大学院生により、学生の制作活動を地域住民の方に知って貰うと共に、身近に美術を楽しむための空間をつくった。コピオ多摩境店内にオープンしたカフェ&ギャラリースペースである。

ハ. 多摩美術大学彫刻展



彫刻学科の教員・学生の作品を中心に、八王子市と共催で2004年から定期的に行っている美術展である。

八王子市役所本庁舎や八王子駅南口前広場、八王子ビュータワー等、八王子の街各所に彫刻作品を展示し、地域の文化活動に大いに貢献している。

ニ. 小さな美の感情

ふとした瞬間に芸術にふれてもらうための活動として2002年から毎年開催している。ショーウィンドウや噴水広場など八王子駅ビル各所に教員や学生の作品を展示すると共に美術講座を開催した。展示作品は八王子市福祉事業のチャリティで販売された。

ホ. 高大連携授業

2004年からの取り組みとして、近隣の高校生に実習や講義を受講する機会を設けている。東京都立芸術高等学校・東京都立片倉高等学校の生徒の希望者を対象に、絵画学科版画専攻、工芸学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻、情報デザイン学科などで実施して来た。

2007年度には東京都立八王子桑志高等学校が開校するにあたり、4つの専門分野（デザイン・クラフト・システム情報・ビジネス情報）の「デザイン」の教育内容について積極的に提言を行うなど連携をはかり、7月には本学で体験実習を実施した（Ⅱ-三. 課程の教育内容・方法等P. 73-74参照）。

ヘ. 「つたえよう！アニメで卒業メッセージ」

八王子市柏木小学校6年生の図工の授業を、2003年から3年間にわたりサポートしたプロジェクトである。卒業記念で行う小学生のクレイアニメの制作を情報デザイン学科の学生ボランティアと一緒に手伝った。

ト. ガーデンシティ 多摩センターこどもまつりへの参加

毎年こどもの日を含む3日間、多摩センター駅周辺で開催されるこども祭りで、学生達が自身の制作した美術作品を展示・販売する「多摩美アート・マーケット」を同時開催している。

チ. その他、近年の活動

- ・八王子市教育委員会「夏季パワーアップ研修」協力／2002～2005年
- ・世田谷区瀬田地域「道のネームプレート」制作／2002年～
- ・地域と大学を結ぶ情報紙「さがまち」の企画参加／2003年
- ・「That's 八王子学 ～学生が提言するまちづくりとは～」提案／2006年
- ・「地域で支えよう町田っ子の未来探し(中学2年生職場体験事業)」受け入れ
／2005年～
- ・八王子駅前商店街トイレサインのデザイン／2005年
- ・八王子鑑水地域フェスタへの参加／2002年
- ・学術・文化・産業ネットワーク多摩への参画／2005年～
- ・八王子学園都市大学（他大学との単位互換構想）への参加／2005年～
- ・八王子市立鑑水小学校5年生との共同研究／1999年～
- ・南大沢保育園の遊具・玩具のデザイン開発と制作／1981年～

b. 生涯学習センターの活動

高度かつ専門的な再教育の機会を提供するだけでなく、社会に真の意味での日常に息づいた文化を創造していくことを目標としている。

年齢や職業、経験の有無、居住する場所に関わらず、全ての人に開かれている美術・芸術を提案し、地域の文化拠点としての役割を担っていくことを目指している。

2000年に年間40講座で始まったプログラムは、2004～2006年度には約130講座まで充実した。年間延べ受講者は約4,000名にも及び、そのうち4割強をこども（小・中学生）が占めるなど、本活動の一つの大きな特徴となっている。

成人講座は40～60歳代が中心であり、居住地域ではキャンパス周辺の東京都南部、横浜・川崎市、多摩地区で8～9割を占めるが、遠方から通学する熱心な受講生も多い。

また、学内の講座開設のみならず、地方自治体や学外の諸機関との連携講座の実施、芸術普及に関する研究等も進めている。

受講生からの評価に関しては、2003年度無作為に抽出した400名への調査結果において、「内容には満足・概ね満足している」、「また是非参加したい」という回答が、ともに90%を超えた。

イ. こども講座

夏休みに実施されている「好奇心の学校－多摩美術小中学校」シリーズや、土曜日を中心に開講しているこども講座には、年間約1,600名もの小中学校が参加している。つくることのみならず主眼を置くのではなく、見て、触れ、感じ、考えながら、柔らかな美術とのかかわりを持てるような講座づくりを目指している。

○これまでに開講された講座

- ・あそびじゅつ
- ・美術ってなあに？
- ・墨の世界のふしぎ話
- ・あっ！こんなところに、こんな世界があったんだ
- ・どんなかたちになるのかな やわらかいガラスって
- ・ふわふわ、ぶくぶく、ごしごし、きゅっ。
- ・どろんこ造形教室 ほか

ロ. 講演

年に数回、無料で参加できる講演会なども行っており、「特別講座 芸術と人生」のシリーズは第15回を数える。芸術を生み出す側だけでなく、芸術を支える側、楽しむ側など様々な角度から多彩なゲストを呼び、“今、芸術に何が可能か”をテーマに講演を行う。

○これまでに開講された講座

- ・第9回 「歌」の道をたどりなおす（吉増剛造：詩人）
- ・第10回 歌舞伎がぼくを変えた（山川静夫：元アナウンサー）
- ・第11回 落語を一席－寄席の魅力（八木忠栄：詩人、林家正雀：落語家）
- ・第12回 遙けくも来つるものかな！（辻井喬：詩人）

Ⅱ-九. 社会貢献

- ・第13回 手で作る心（森英恵：ファッション・デザイナー）
- ・第14回 「死者の書」映画上映（川本喜八郎：人形美術家）
- ・第15回 団塊の世代と芸術（堺屋太一：作家）

ハ. 講義講座

人々の営み全てにかかわって存在する美術・芸術の全体を視野に入れ、学部の授業等では実現しにくい、生涯学習ならではの柔軟な視点で講座を開設している。

ニ. 演習講座

絵画、版画、彫刻、工芸、写真、映像、デザインなど、様々な表現手法を用いて、美術の始まりの美しさ、創造の愉しみを追求して行く講座である。実技講座のなかに必ず講義を盛り込むことで、みる視点とつくる視点の統合など、より本質に迫るための手法を常に模索している。

ホ. 新企画シリーズ

常に新しい実験的な講座の構築に努めている。クリエイティブな自分自身の発見をテーマに、デザインやマスコミの第一線で活躍する方々に話をうかがうデザイン関連の講座群や、センター長が創造の現場で活躍する方々を招待する「連続対話講座 八十八庵」シリーズなどがスタートした。

年度	講座数	定員	申込者数	受講者数
2000年	43講座（うち開講中止 2講座）	2,303	3,865	2,491
2001年	60講座（うち開講中止 0講座）	3,352	3,142	2,843
2002年	105講座（うち開講中止 5講座）	—	5,642	3,921
2003年	161講座（うち開講中止 12講座）	5,944	4,618	4,363
2004年	134講座（うち開講中止 5講座）	4,685	3,567	3,881
2005年	128講座（うち開講中止 1講座）	5,067	5,569	4,523
2006年	129講座（うち開講中止 3講座）	3,831	6,104	3,682

（表Ⅱ-九-2 生涯学習プログラム開講実績）

本学における社会貢献については“美術大学”と言う特色を活かし、他大学には真似の出来ない形で社会貢献を行っていると言える。一般大学での公開講座などでは、社会人等に対象が絞られてしまう。本学の地域連携の参加方法は、一般的な公開講座に加え、街づくりの一環や、子供を対象とする講座など対象者の幅が非常に広がっている。自然な形で地域との連携を深めていることは高く評価出来る。

